

外国人日本語教師のためのポートフォリオの開発 — 海外日本語教師研修教授法科目での運用 —

濱川祐紀代(国際交流基金日本語国際センター) Yukiyo_Hamakawa@jpf.go.jp
金 孝卿(国際交流基金シドニー日本文化センター) Hyogyung_Kim@jpf.org.au

1. ポートフォリオ (PF) 評価導入の背景と目的

- a. 研修目標：外国人日本語教師を対象にした6カ月わたる「長期研修」の目標は、多様な学習背景としディネスを持つ参加者が、自身の現状を把握し、研修で得られた情報や知識に照らし、自国で応用できる観点を自ら見出せるようになること。
- b. 教授法科目に求められること：教授法の知識と技術の向上・日本語教師としての専門日本語の力の向上
* 専門日本語：例えば、講義において教授法の理論が理解できるようになること、理解にもとづいてディスカッションできるようになること、理解した理論を実践に結び付けられるようになること、またその実践を振り返ることができるようになること、など。
- c. 教授法科目へのPF評価導入：各研修参加者が、受けた授業を振り返ったり、また自分なりの価値づけをしながら整理したりしていくことが重要であり、PF評価の導入はそのサポートが可能だと考え、2005年度から導入しており、改訂を重ねてきた。

2. PF評価の構成と内容

【PFの構成】JF日本語教育スタンダード（JFスタンダード）のPFの枠組みに倣い、次のような構成にした。

① 評価表 「日本語・自己評価チェック (図A)」「教授法・目標&評価シート (図B)」「教授法・目標達成説明シート (図B)」

→ JFスタンダードをもとに、本研修において、外国人日本語教師に必要な日本語でのコミュニケーション能力をリスト化

② 学習の記録 「教授法・授業レポート」「個別面談の振り返りシート (図C)」「言語的・文化的体験の記録」「わたしの語彙リスト」

→ 「授業レポート」は「模擬授業前」「模擬授業中」「模擬授業のあと」での3期にわけて、コメントを書き込めるようにし、段階的な内省を促すような仕組みを作った。

③ 学習の成果 「成果物のリスト」

3. PF評価に対する研修参加者の反応

a. 良かった点 (一部)

「既習知識が整理できる」「自己モニターに役立つ」「セルフチェックで自分の目標や不十分な点が見えるようになる」「記録が考える機会になる」「帰国後にやってみようことなどを全部記録できた」

b. 良くなかった点 (一部)

「時間や手間がかかる」「学習者の主体的な意思が必要」「シートによっては何を書いたらよいか分からず難しい」

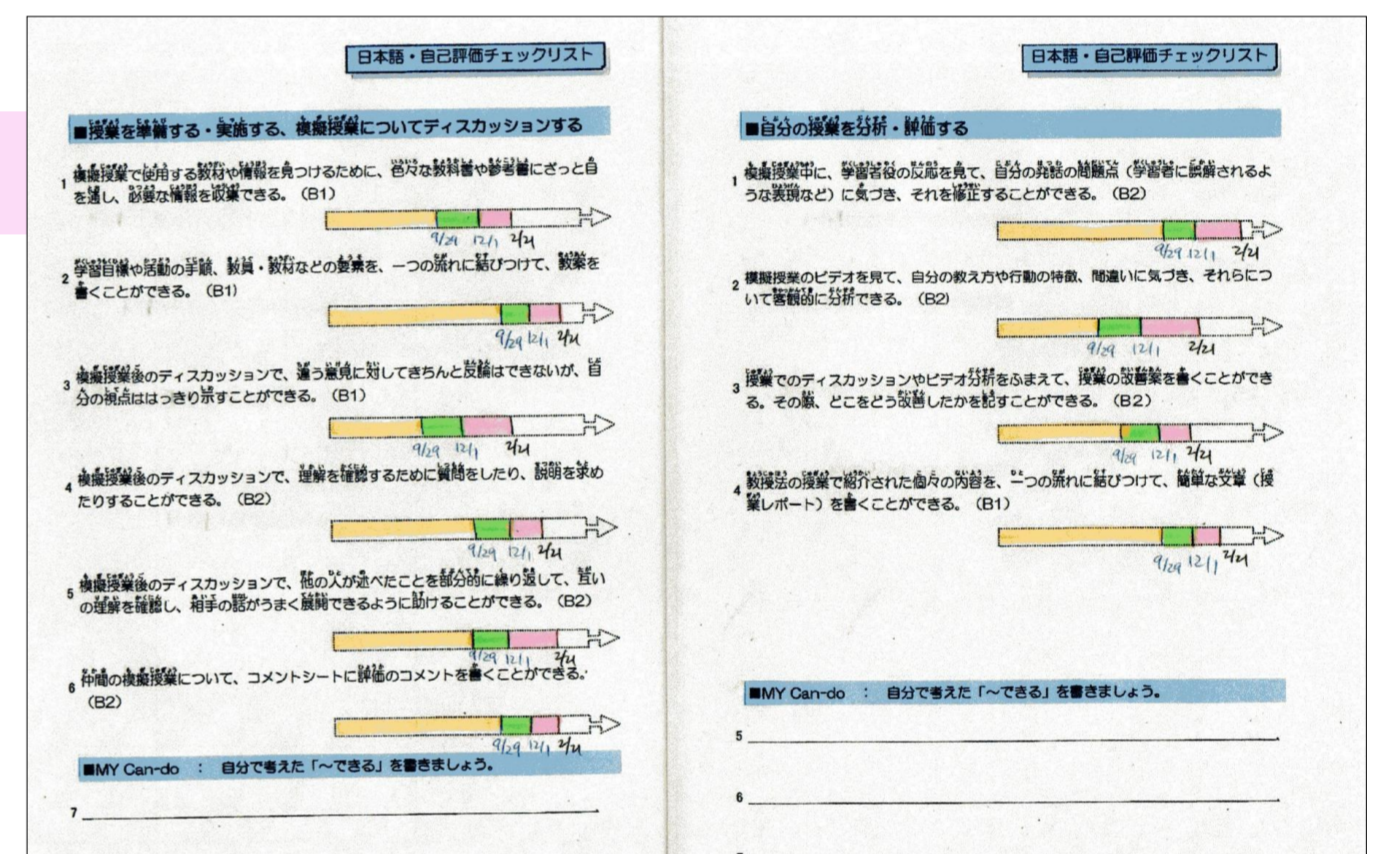
4. 今後の課題

研修参加者の反応から改善すべき点を考えてみると、何を書くべきか分からないといった声もあり、書き方やタイミングなどに関する説明が不足していたことが考えられる。口頭での説明で不安が残るのであれば、サンプルなどを見せ、どのようなものが把握させるのも一案だろう。また教師からのフィードバックを求める声もあり、関与や共有のタイミングを考える必要があるだろう。

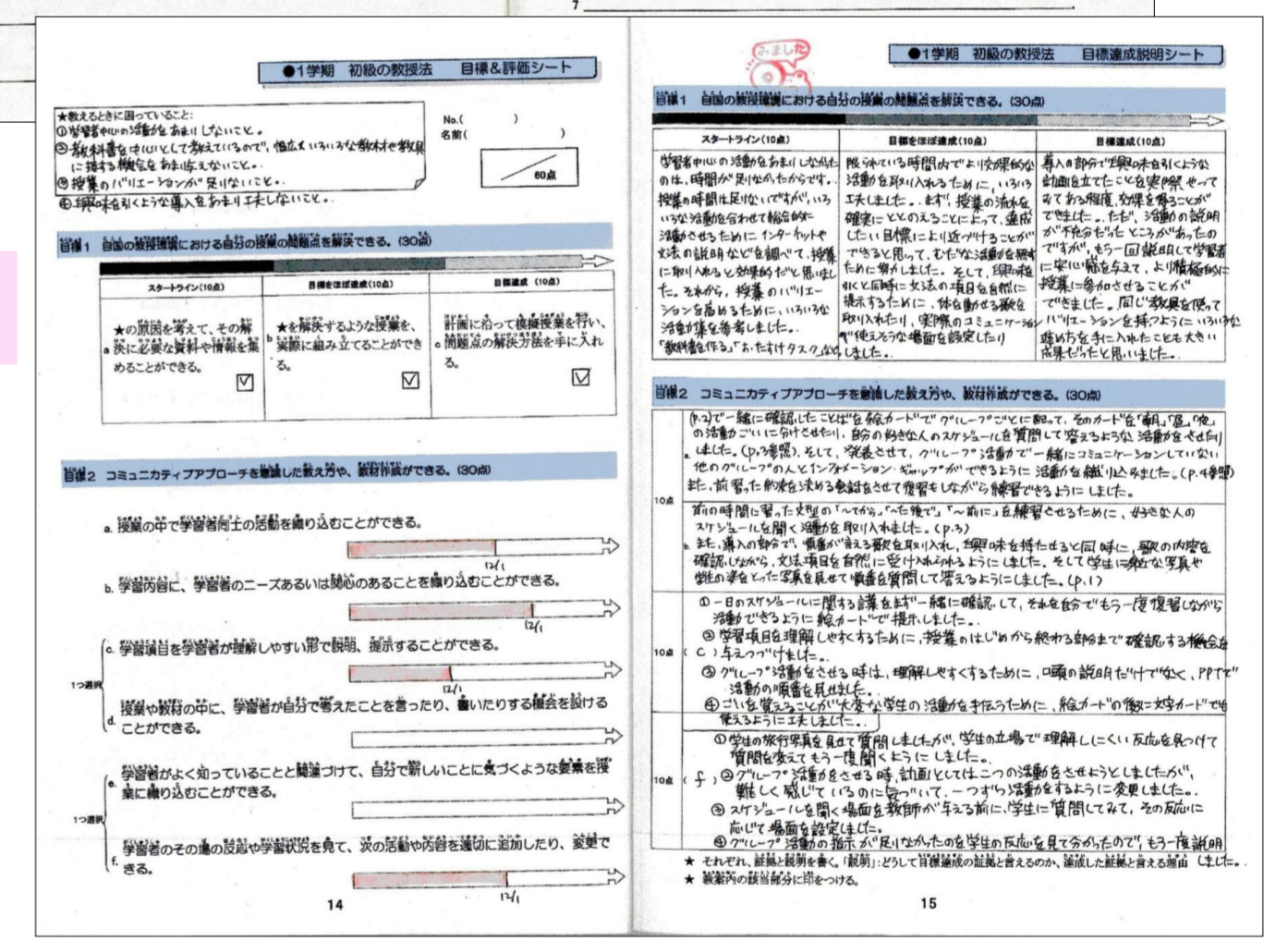
参考文献

- 1) David Newby(2007) *EPOSTL - A reflection tool for language teacher education*, The European Centre for the Modern Languages.
- 2) 国際交流基金 (2012) 『JF日本語教育スタンダード2010[第二版]』、『JF日本語教育スタンダード2010 利用者ガイドブック[第二版]』
- 3) 小玉安恵・木山登茂子・有馬淳一 (2007) 「外国人日本語教師教育へのポートフォリオ評価導入の試み-17年度長期研修Bコース教授法クラスにおける実施報告」『国際交流基金日本語教育紀要』3号, pp.95-111, 国際交流基金日本語国際センター

図A



図B



図C

